

Derwent WPI

(c) 2009 Thomson Reuters. All rights reserved.

0008909997 & & Drawing available

WPI Acc no: 1998-460158/199840

XRPX Acc No: N1998-359258

Airtight compact for storing cosmetic material - has packing on peripheral edge of cosmetic materials storage recess, and projection on inner lid to transmit stopping force from outer lid to inner lid

Patent Assignee: SHISEIDO CO LTD (SHIS); YOSHIDA KOGYO KK (YOSI)

Inventor: KIZAWA I; NAGOSHI M; TORII M; YAJIMA I; YUZUHARA Y

Patent Family (2 patents, 1 & countries)

Patent Number	Kind	Date	Application Number	Kind	Date	Update	Type
JP 10192044	A	19980728	JP 19976740	A	19970117	199840	B
JP 3808152	B2	20060809	JP 19976740	A	19970117	200652	E

Priority Applications (no., kind, date): JP 19976740 A 19970117

Patent Details

Patent Number	Kind	Lan	Pgs	Draw	Filing Notes	
JP 10192044	A	JA	9	10		
JP 3808152	B2	JA	10		Previously issued patent	JP 10192044

Alerting Abstract JP A

The compact has a main body (14) with a cosmetic material storage recess (12). An outer lid (18) is hinged to the rear of the main body. A hook (26) at the free front end of the outer lid engages the front end of the main body. A packing (32) is on the peripheral edge of the recess.

An inner lid (34) is pivoted at its rear end by a hinge pin (36a) located outside the packing. A hook (38) is formed at the front of the inner lid. Stopping force of the outer lid is transmitted to the inner lid by a projection (40) on the inner lid upper surface.

ADVANTAGE - Ensures airtight seal of cosmetic material storage recess for long period of time since packing is pushed by inner lid which closes recess. Ensures durability of packing. Allows simple exchange of cosmetic material by removing inner lid. Improves compact assembly.

Title Terms /Index Terms/Additional Words: AIRTIGHT; COMPACT; STORAGE; COSMETIC; MATERIAL; PACK; PERIPHERAL; EDGE; RECESS; PROJECT; INNER; LID; TRANSMIT; STOP; FORCE; OUTER

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-192044

(43)公開日 平成10年(1998)7月28日

(51)Int.Cl.⁶
A 4 5 D 33/00識別記号
6 4 0
6 2 5F I
A 4 5 D 33/00 6 4 0
6 2 5 A

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 9 頁)

(21)出願番号 特願平9-6740

(22)出願日 平成9年(1997)1月17日

(71)出願人 000001959

株式会社資生堂

東京都中央区銀座7丁目5番5号

(71)出願人 000160223

吉田工業株式会社

東京都墨田区立花5丁目29番10号

(72)発明者 矢島 勲

神奈川県横浜市港北区新羽町1050 株式会

社資生堂第1リサーチセンター内

(72)発明者 鳥居 昌仁

神奈川県横浜市港北区新羽町1050 株式会

社資生堂第1リサーチセンター内

(74)代理人 弁理士 一色 健輔 (外2名)

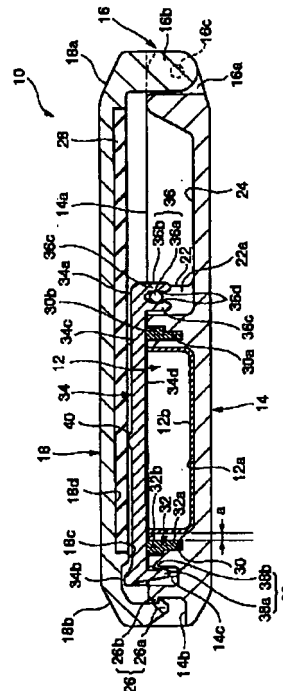
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 気密化粧品容器

(57)【要約】

【課題】 中蓋の蝶着部分に上下方向の融通を積極的に与えることにより、中蓋によるパッキングの押圧力を全体的に均等化させ、該パッキングの耐久性を向上しつつ優れた気密性能を得るようにした気密化粧品容器を提供する。

【解決手段】 化粧品収納部12を囲繞して形成した溝部30に、上端部が突出するようにしてパッキング32を嵌着する。化粧品収納部12を開閉する中蓋34に対し、回動基端部34aに突設した二股状凸部36bと、化粧品収納部12後方の仕切壁22の切欠部22a内に取付けた蝶番ピン36aとで第2蝶番36を構成する。二股状凸部36bに備えた一対の挟持片36c間に蝶番ピン36aを相対移動可能かつ着脱可能に嵌合する。中蓋34の表面34cの中央部に凸部40を球面状に突設し、凸部40には外蓋18を閉止した際に外蓋18の裏面18cが圧接する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 化粧料収納部が設けられた容器本体と、該容器本体に螺着されて開閉可能な外蓋と、該外蓋の開閉側端部と前記容器本体との間に設けられる第1フック機構と、前記化粧料収納部の周縁部に設けられるパッキングと、該パッキングの外方に設けられる蝶番ピンと、該蝶番ピンに回動基端部が上下移動可能かつ回動可能に取付けられ、閉止状態で前記パッキングの上端に当接する中蓋と、該中蓋の開閉側端部と前記容器本体との間に設けられる第2フック機構と、前記中蓋の表面と前記外蓋の裏面との間に設けられ、外蓋の閉止力を中蓋に伝達する閉止力伝達手段とを備えたことを特徴とする気密化粧料容器。

【請求項2】 前記中蓋の回動基端部が前記蝶番ピンに着脱可能に取付けられることを特徴とする請求項1に記載の気密化粧料容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、化粧料を収納して携帯可能な気密化粧料容器に関する。

【0002】

【従来の技術】一般に、化粧料の携帯用にコンパクトと称する化粧料容器が用いられるが、この化粧料容器は容器本体内に化粧料を収納すると共に、容器本体の後端部に開閉自在に螺着される蓋体で容器本体上側を全体的に覆うようになっている。そして、容器本体と蓋体との前端部間に設けられるフック機構で蓋体の閉止状態が保持されるのが一般的な構造となっている。

【0003】ところで、この種の化粧料容器としては実開昭58-4003号公報に開示されるように、蓋体を外蓋と中蓋とで二重構造に構成したものがある。即ち、前記外蓋は容器本体を全体的に閉止するようになっており、一方、前記中蓋は容器本体に収容される化粧料を収納した中皿を閉止するようになっている。中蓋は中皿に回動可能に螺着されて、該中蓋の閉止時には中皿の開口部周縁をパッキングを介して密閉し、かつ、容器本体の外蓋が閉位置にあるときに、中蓋が外蓋で押圧されて中皿の密閉性が増大されるようになっている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、かかる従来の化粧料容器にあっては、化粧料を収納した中皿を、これに螺着した中蓋で密閉するようになっているが、該中蓋はこれを螺着する蝶番ピンを中心に回動されるようになっている。このため、中蓋によって中皿の開口部周縁をパッキングを介して閉止する際には、この原理により蝶番に近い側と遠い側とでは押圧力が異なる。そして、蝶番に遠い側で所要の押圧力を得ようとすると、近い側では押圧力が著しく大きくなって、当該部分のパッキングが部分的に強く圧縮されるため、パッキングの耐久性が低下してしまうという課題があった。

【0005】そこで、本発明はかかる従来の課題に鑑みて、中蓋の螺着部分に上下方向の融通を積極的に与えることにより、中蓋によるパッキングの押圧力を全体的に均等化させ、該パッキングの耐久性を向上しつつ優れた気密性能を得るようにした気密化粧料容器を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】かかる目的を達成するために請求項1に示す本発明の気密化粧料容器は、化粧料収納部が設けられた容器本体と、該容器本体に螺着されて開閉可能な外蓋と、該外蓋の開閉側端部と前記容器本体との間に設けられる第1フック機構と、前記化粧料収納部の周縁部に設けられるパッキングと、該パッキングの外方に設けられる蝶番ピンと、該蝶番ピンに回動基端部が上下移動可能かつ回動可能に取付けられ、閉止状態で前記パッキングの上端に当接する中蓋と、該中蓋の開閉側端部と前記容器本体との間に設けられる第2フック機構と、前記中蓋の表面と前記外蓋の裏面との間に設けられ、外蓋の閉止力を中蓋に伝達する閉止力伝達手段とを備えることにより構成する。

【0007】また、請求項2に示す本発明の気密化粧料容器は、前記中蓋の回動基端部を、前記蝶番ピンに着脱可能に取付けることにより構成する。

【0008】以上の構成により請求項1に示す気密化粧料容器は、容器本体に設けられた化粧料収納部を閉止する中蓋と、容器本体を全体的に閉止する外蓋とを備え、前記化粧料収納部はこれを囲繞するパッキングに前記中蓋が圧接されることにより気密に密閉される。前記外蓋および前記中蓋が閉止される際、まず、中蓋を閉じて第2フック機構に係合することにより、該中蓋は前記パッキングに当接されることになる。このとき、中蓋の回動基端部は蝶番ピンに対して上下移動可能に取付けられているため、中蓋を閉じるときに該中蓋がパッキングに当接した時点で、該パッキングの当接部分を支点として回動基端部が上方に持上げられる。従って、中蓋は化粧料収納部の開口部、ひいてはパッキングに対して平行状態となって、パッキング上端の全周に均等に接触する。そして、外蓋を閉じて第1フック機構に係合した際に、該外蓋の閉止力が閉止力伝達手段を介して中蓋に伝達されて、該中蓋はパッキングに大きな押付け力をもって圧接され、化粧料収納部内を気密に密閉する。従って、前記中蓋は前記パッキングの全周に常に均等な押付け力を作用させることができるため、パッキングの耐久性、延いては気密化粧料容器の気密性能を長期にわたって保証することができる。

【0009】また、請求項2に示す気密化粧料容器は、前記中蓋の回動基端部を、前記蝶番ピンに着脱可能に取付けたので、化粧料収納部内の化粧料を交換する際に中蓋を外すことができ、交換作業が容易になると共に、化粧料容器製造時の組立性を向上することができ

る。

【0010】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施形態を添付図面を参照して詳細に説明する。図1から図8は本発明の気密化粧料容器の一実施形態を示し、図1は外蓋を開いて中蓋を取外した状態の斜視図、図2は外蓋および中蓋の閉止状態の図1中A-A線に対応する断面図、図3は外蓋および中蓋の閉止状態の図1中B-B線に対応する断面図、図4は中蓋および外蓋を全開した状態の要部拡大断面図、図5から図7は中蓋を閉止する状態を順を追って示す要部拡大断面図、図8は中蓋および外蓋を閉止完了した状態の要部拡大断面図である。

【0011】即ち、本実施形態の気密化粧料容器10は図1から図3に示すように、化粧料収納部12を形成した容器本体14と、この容器本体14の後端部に第1蝶番16を介して回動基端部18aが蝶着される外蓋18とを備える。容器本体14は上面14aが平坦面として形成され、その前方部に前記化粧料収納部12が矩形状に凹設され、該化粧料収納部12には化粧料20が充填された皿体12bが着脱自在に収納される。また、前記容器本体14の後方部には、前記化粧料収納部12に対して仕切壁22で隔成される矩形状の凹設部24が設けられる。該凹設部24はパフ等の化粧具の収納部として用いることができる。

【0012】前記第1蝶番16は、容器本体14の後端部中央に形成される凹部16aに、外蓋18の回動基端部18aの中央部に形成される凸部16bが嵌合され、これら凹部16aと凸部16bとに跨がって両側から蝶番ピン16cが挿入されることにより構成される。また、前記外蓋18には開閉側端部18bの中央部に第1爪部26aが突設される一方、容器本体14の前端部中央に形成された凹部14bに位置して、前記第1爪部26aに係合可能な第1凸部26bが突設され、これら第1爪部26aと第1凸部26bとによって第1フック機構26が構成される。更に、前記外蓋18の裏面18cには、バニティミラー28が凹設部18dに嵌合されて面一に取付けられる。

【0013】前記化粧料収納部12は図2、図3に示したように、容器本体14に形成した凹設部12aの内側に沿って皿体12bが嵌着され、該皿体12bに化粧料20が装填されるようになっている。また、前記化粧料収納部12の周縁部には、前記凹設部12aの外周から適宜間隔aを設けて溝部30が該化粧料収納部12を圍繞して形成され、該溝部30に環状のパッキング32が嵌着される。前記溝部30は下段部30aが幅狭となり、上段部30bが幅広となる段差状に形成される。そして、前記パッキング32は前記下段部30aに圧入される固定部32aと、前記上段部30bに若干の隙間をもって遊嵌される圧縮変形部32bとで形成される。前記圧縮変形部32bの上端部は、容器本体14の上面1

4aから若干突出して配置される。

【0014】前記化粧料収納部12の上側には中蓋34が設けられる。該中蓋34は容器本体14と外蓋18との間に配置され、その回動基端部34aは化粧料収納部12の後端部に設けられる第2蝶番36を介して回動可能に蝶着される。該第2蝶番36は、前記仕切壁22の中央部に形成した切欠部22a内に取付けられる蝶番ピン36aと、中蓋34の回動基端部34aの中央部にU字状に突設される二股状凸部36bとによって構成される。

【0015】前記二股状凸部36bは前記蝶番ピン36aの径と等しい間隔をもって対峙される一対の挟持片36c、36cを備え、これら挟持片36c、36cの先端部内側には鉤部36d、36dが突設される。そして、前記二股状凸部36bは挟持片36c、36c間に蝶番ピン36aが着脱可能に嵌合される。該二股状凸部36bは該蝶番ピン36aを中心として回動可能となり、かつ、挟持片36c、36cの内側に沿って蝶番ピン36aと二股状凸部36bとは相対移動が可能となっている。また、前記鉤部36d、36dによって蝶番ピン36aから二股状凸部36bが離脱するのが防止される。

【0016】前記中蓋34の開閉側端部34bには第2爪部38aが突設されると共に、容器本体14の前記凹部14bの後方に位置して形成した穴部14cに、前記第2爪部38aに係合可能な第2凸部38bが形成され、これら第2爪部38aと第2凸部38bとによって第2フック機構38が構成される。

【0017】前記中蓋34の表面34cの中央部には、閉止力伝達手段としての凸部40が球面状に突設される。該凸部40は中蓋34および外蓋18を閉止した状態で、該外蓋18の裏面18c（本実施形態ではバニティミラー28の表面）が圧接されるようになっている。

【0018】以上の構成により本実施形態の気密化粧料容器10にあっては、外蓋18は第1蝶番16を中心に開閉されると共に、中蓋34は第2蝶番36を中心に開閉されるようになっており、図4に示す外蓋18および中蓋34の全開状態からこれら外蓋18および中蓋34を閉止する際には、まず図5から図7に示す段階を経て中蓋34を閉止した後、図8に示すように外蓋18が閉止される。

【0019】前記中蓋34は開閉側端部34bを前方に押下げることにより、第2フック機構38の第2爪部38aが第2凸部38bに係合して、該中蓋34の閉止状態が保持される。このとき、前記第2フック機構38が係合される前段階で、中蓋34の押下げ（押下げ力F1）により、図5に示したように中蓋34の裏面34dがパッキング32の後方部分の上端に当接される。すると、当該当接部分を支点Pとして回動基端部34aに上方への持上げ力F2が作用し、これによって図6に示し

たように二股状凸部36bが蝶番ピン36aに対して上方に移動して持上がる。従って、図7に示したように前記第2フック機構38が係合されて、前記中蓋34のみが閉止完了された状態では、前記二股状凸部36bが上方に逃げるため、中蓋34のパッキング32への圧接力は小さく、かつ、中蓋34は該パッキング32の全周に亘ってほぼ均等な圧接をもって接触している。

【0020】そして、図8に示したように最終的に外蓋18が閉止されるが、該外蓋18を閉じる際には、開閉側端部18bを押下げることにより、第1フック機構26の第1爪部26aが第1凸部26bに係合して、外蓋18の閉止状態が保持される。そして、かかる外蓋18の閉止状態では、裏面18cに設けたバニティミラー28の鏡面で、中蓋34の表面34cに設けた凸部40を押圧する。従って、外蓋18の閉止力が前記凸部40を介して中蓋34の全面に均等に伝達されることになり、該凸部40の押圧により中蓋34は二股状凸部36bの下方移動を伴って全体的に押下げられる。これによって中蓋34の裏面34dでパッキング32の上端部を強く押付け、化粧料収納部12内の気密性が確実に保持される。

【0021】従って、前記中蓋34は前記パッキング32の全周に常に均等な押付け力を作用させることができるため、パッキング32の耐久性、延いては気密化粧料容器10の気密性能を長期にわたって保証することができる。また、前記パッキング32はこれの上端部に設けた圧縮変形部32bが、溝部30の上段部30bに隙間をもって嵌合されているため、中蓋34を押付けた際の圧縮変形が容易に行われる。

【0022】次に、化粧料20を使用する際には、まず外蓋18の開閉側端部18bを上方に押上げることにより、第1フック機構26の第1爪片26aと第1凸部26bとが係合解除されて外蓋18が開放される。次に、中蓋34の開閉側端部34bを上方に押上げることにより、第2フック機構38の第2爪片38aと第2凸部38bとが係合解除されて中蓋34が開放され、化粧料収納部12を露出させることができる。

【0023】また、本実施形態では前記第2蝶番36の二股状凸部36bに設けられた一对の挟持片36c、36c間に、蝶番ピン36aが着脱可能に嵌合されているため、中蓋34を上方に引き抜くことにより、蝶番ピン36aは挟持片36c、36c先端部の鉤部36d、36dを乗り越えて、該中蓋34を取外すことができる。従って、化粧料収納部12内の化粧料20を交換する際に中蓋34を取外すことができ、交換作業が容易になると共に、化粧料容器10製造時の組立性を向上することができる。

【0024】図9、図10は他の実施形態を示し、前記実施形態と同一構成部分に同一符号を付して重複する説明を省略して述べる。この実施形態において図9は外蓋

を開いて中蓋を取外した状態の斜視図、図10は外蓋および中蓋の閉止状態の図9中C-C線に対応する断面図である。

【0025】即ち、この実施形態の気密化粧料容器10aは、中蓋34の表面34cに突設される閉止力伝達手段としての凸部40を、左右対称に2個設けてある。この場合、中蓋34の回動基端部34aに垂設される二股状凸部36bを、左右両端部に一对設けると共に、これに伴って仕切壁22の両端部に切欠部22aを一对形成し、それぞれの切欠部22aに蝶番ピン36aを設けてある。そして、一对の蝶番ピン36aに前記一对の二股状凸部36bを嵌着して第2蝶番36が構成されるようになっている。

【0026】従って、この実施形態にあっても外蓋18の閉止力が、一对の凸部40を介して中蓋34に伝達され、該中蓋34をパッキング32に強く圧接させることができる。勿論、前記二股状凸部36bが蝶番ピン36aに対して移動可能となっているため、中蓋34がパッキング32の全周に均等に圧接されることになり、従って、パッキング32に部分的に過剰な押圧力が作用するのを防止して、パッキング32の耐久性を向上しつつ気密性能を長期にわたって保証することができる。また、前記二股状凸部36bが蝶番ピン36aから離脱可能であるため中蓋34を取外すことができ、化粧料20の交換性および化粧料容器10aの組立性が向上される。

【0027】この実施形態では2つの化粧料収納部12が左右方向に併設され、これら2つの化粧料収納部12を包含して囲繞するように前記パッキング32が配置されている。

【0028】

【発明の効果】以上説明したように本発明の請求項1に示す気密化粧料容器にあつては、容器本体に設けられた化粧料収納部を閉止する中蓋と、容器本体を全体的に閉止する外蓋とを備え、前記化粧料収納部を囲繞するパッキングに前記中蓋が圧接して該化粧料収納部内を気密に密閉するようになっており、かつ、中蓋の回動基端部が蝶番ピンに対して上下移動可能に取付けられているため、中蓋を閉じるときに該中蓋がパッキングに当接した時点で、該パッキングの当接部分を支点として回動基端部が上方に持上げられ、該中蓋をパッキング上端の全周に均等に接触させることができる。そして、外蓋を閉じて第1フック機構に係合した際に、該外蓋の閉止力が閉止力伝達手段を介して前記中蓋に伝達されるため、該中蓋はパッキングに大きな押付け力をもって圧接され、化粧料収納部内を気密に密閉することができる。従って、前記中蓋は前記パッキングの全周に常に均等な押付け力を作用させることができるため、パッキングの耐久性、延いては気密化粧料容器の気密性能を長期にわたって確保することができる。

【0029】また、本発明の請求項2に示す気密化粧料

容器にあっては、前記中蓋の回動基端部を、前記蝶番ピンに着脱可能に取付けたので、化粧料収納部内の化粧料を交換する際に中蓋を取外すことができ、交換作業が容易になると共に、化粧料容器製造時の組立性を向上することができるという各種優れた効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態を示す外蓋を開いて中蓋を取外した状態の斜視図である。

【図2】本発明の一実施形態を示す外蓋および中蓋の閉止状態の図1中A-A線に対応する断面図である。

【図3】本発明の一実施形態を示す外蓋および中蓋の閉止状態の図1中B-B線に対応する断面図である。

【図4】本発明の一実施形態を示す中蓋および外蓋を全開した状態の要部拡大断面図である。

【図5】本発明の一実施形態を示す中蓋を閉止する初期状態の要部拡大断面図である。

【図6】本発明の一実施形態を示す中蓋を閉止する途中経過の要部拡大断面図である。

【図7】本発明の一実施形態を示す中蓋の第2フック機構に係合した状態の要部拡大断面図である。

【図8】本発明の一実施形態を示す中蓋および外蓋を閉

止完了した状態の要部拡大断面図である。

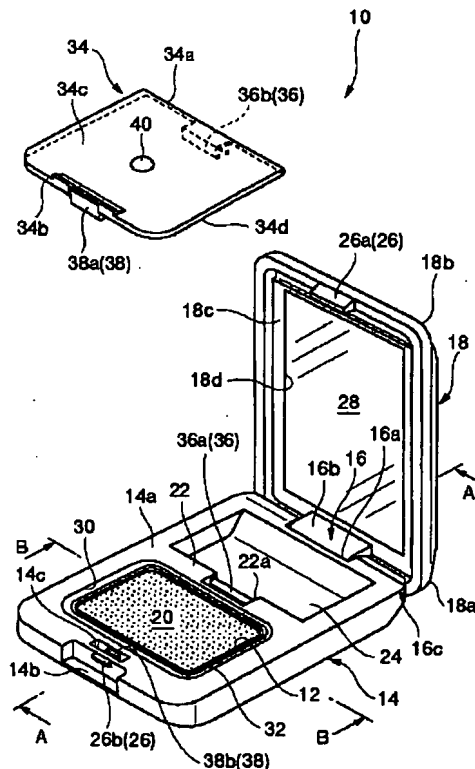
【図9】本発明の他の実施形態を示す外蓋を開いて中蓋を取外した状態の斜視図である。

【図10】本発明の他の実施形態を示す外蓋および中蓋の閉止状態の図9中C-C線に対応する断面図である。

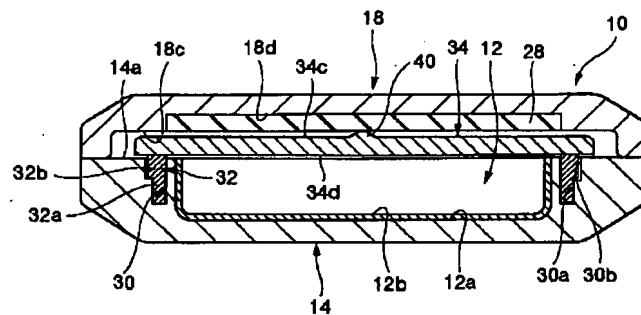
【符号の説明】

- 10 気密化粧料容器
- 12 化粧料収納部
- 14 容器本体
- 16 第1蝶番
- 18 外蓋
- 20 化粧料
- 26 第1フック機構
- 32 パッキング
- 34 中蓋
- 36 第2蝶番
- 36a 蝶番ピン
- 36b 二股状凸部
- 38 第2フック機構
- 40 凸部

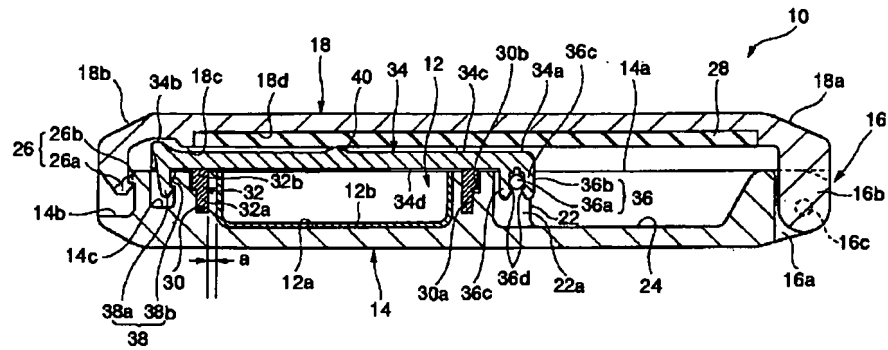
【図1】



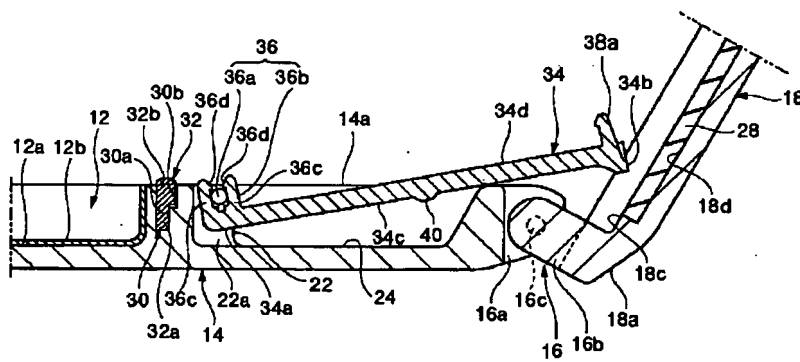
【図3】



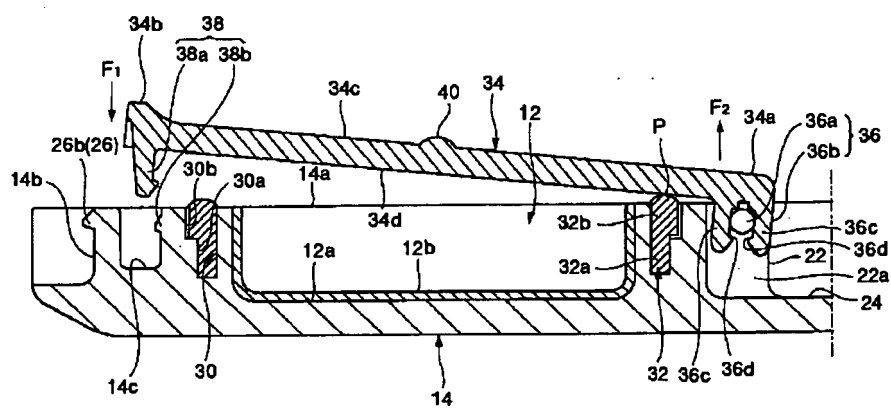
【図2】



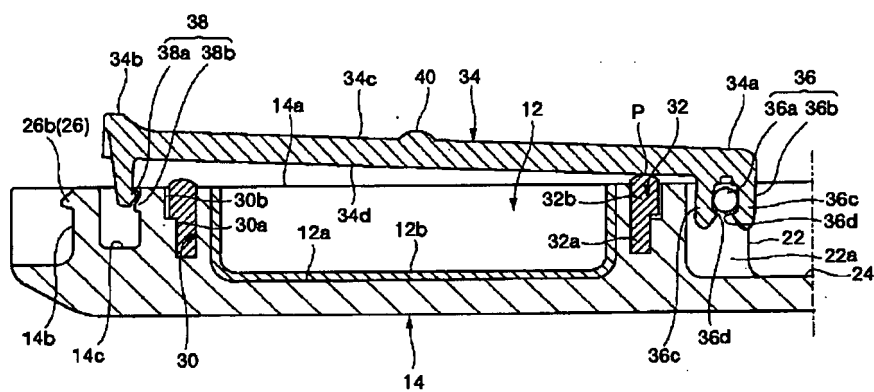
【図4】



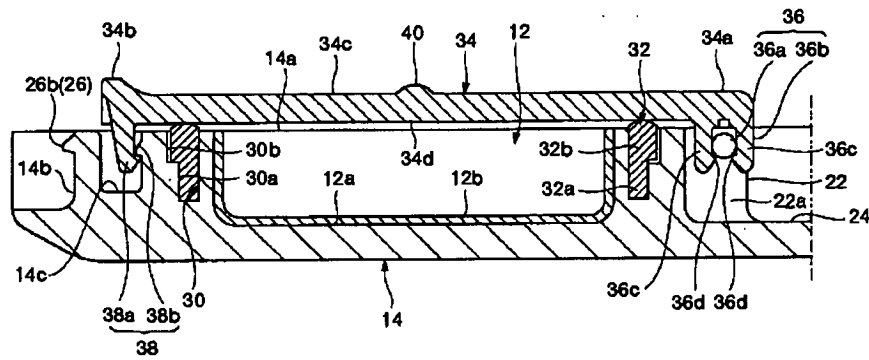
【図5】



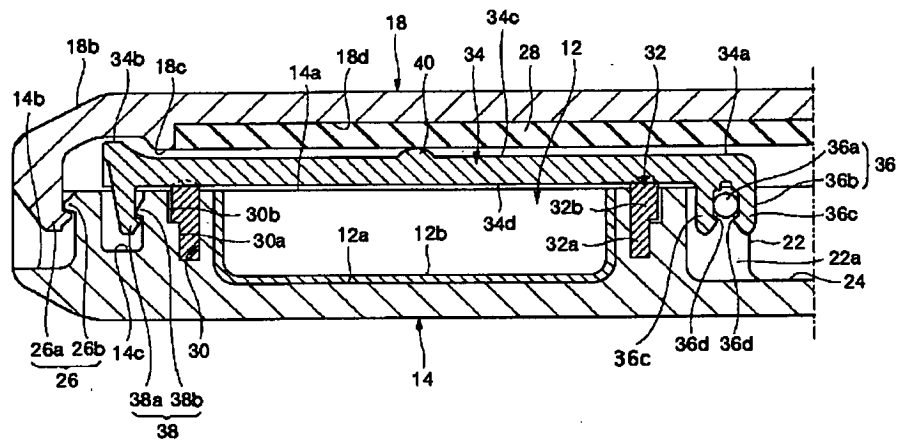
【図6】



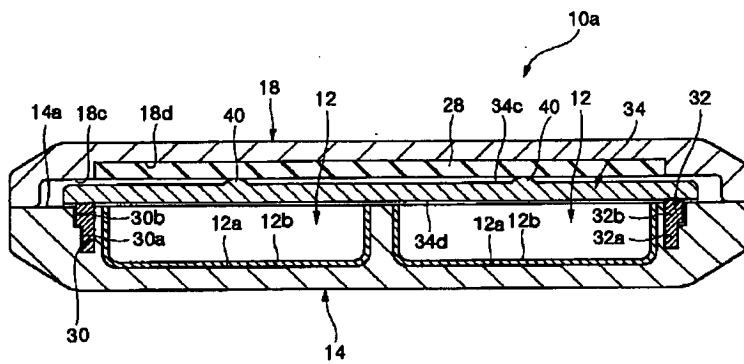
【図7】



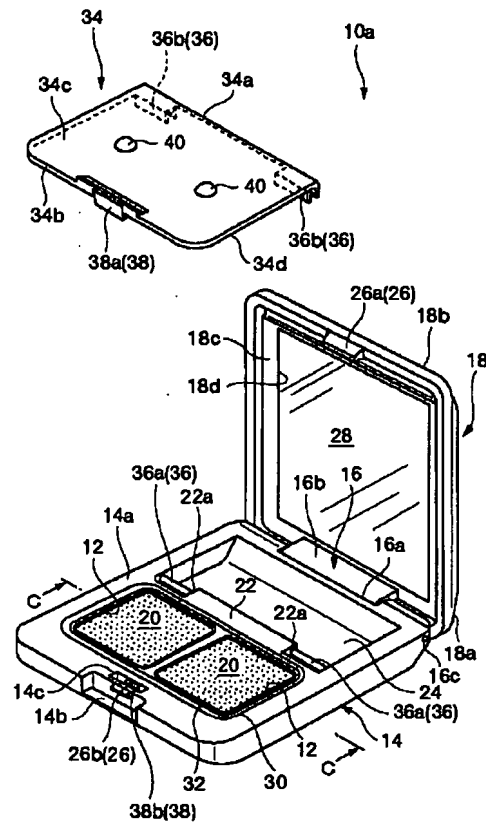
【図8】



【図10】



【図9】



フロントページの続き

(72)発明者 名越 雅彦
神奈川県横浜市港北区新羽町1050 株式会
社資生堂第1 リサーチセンター内

(72)発明者 柚原 幸知
東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉田工
業株式会社内

(72)発明者 鬼沢 一郎
東京都墨田区立花5丁目29番10号 吉田工
業株式会社内